

千葉大学医学部同窓会報 第103号 題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

るの は な 同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区支鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るの は な 同窓会

TEL (043) 222-7171 内線 2038

FAX (043) 222-7853

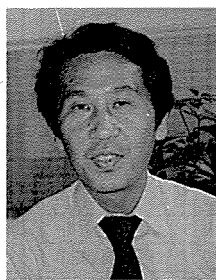
教授就任の挨拶

千葉大学医学部産科婦人科学講座

関谷 宗英 (昭40卒)

平成五年三月末に定年退官されました高見澤裕吉教授の後任として、この産科婦人科学講座を担当することになりました。

産科婦人科学講座の沿革は平成二年十二月に発行された「千葉大学医学部産科婦人科学教室創立百周年記念誌」で紹介されたことく、



既に百年にわたる歴史の重みと多数の人材を輩出しております。

私は千葉大学医学部を昭和四十年に卒業、御園生雄三教授の主幸された産科婦人科学教室に昭和四十一年に入局、直ちに大学院に入學し、川喜田愛郎教授の主幸された微生物学教室において現在各層教授でいらっしゃいます。昭和四十九年以後高見澤裕吉教授の指導の下に、特に教室の伝統である婦人科腫瘍の臨床と基礎を研究領域として今日に至っています。

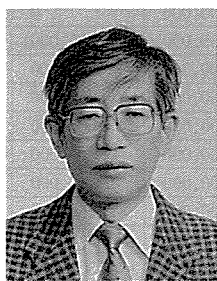
最近の二十年間はご承知の通り、医学、医療は激動の時代であり、日々問題提起の連続であります。特に産科婦人科学領域はヒトの誕

生から死までをカバーする膨大な領域であり、医師として対応が極めて困難であるのが実感です。生殖医学、周産期医学、内分沁学、腫瘍学など、どの分野においても、科学、技術、機器が革新した反面、

千葉大学医学部内科学第三講座

増田 善昭 (昭35卒)

平成五年三月末に停年退官された稲垣義明教授の後任として、平成五年八月一日付で内科学第三講座を担当することになりました。本講座は稲垣教授が昭和四十九年創立以来わずか十九年に過ぎませんが、先生のお人柄を慕って多くの人材が集まり、我国の循環器学の中軸として活躍しております。新しいエネルギーに満ちた教室でもあり、このような講座を引き継ぐことの責任の重大さを痛感して



おります。私が第二内科の故斎藤十六教授の下で循環器学を志したころは、心電図と胸部X線が診断のための

社会倫理、生活の質といった面からの向上が期待されていきます。

以上二十一世紀に向けて希望と共に不安材料も山積みであります。その解決策の一つは教室、関連病院、同窓の和はもとより、各教室との緊密な交流による機能のアップであります。以上の希望が実現しますよう、同窓の諸先生のご指導、ご鞭撻を心からお願いするものであります。

主要な武器であり、治療薬もジグタリスやニトログリセリンを除いてほとんどない状態でした。それ以後、循環器学は各種画像診断法、PTCAやPTCR等の治療法等急速な進歩を示しています。教室では常にその最先端の研究を行って来ましたが、今後も教室員一同力を合せてこれまでの研究をさらに発展させると同時に新しい循環器学を目指して努力したいと考えますので、皆様方のご指導、御指導、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

新名簿予約申し込み案内

発行予定 平成五年十一月
価格 三千元 (送料を含む)
規格 B5版

同封の振替用紙をご利用下さい。三千円の振り込みをもって予約受付とします。お問い合わせは同窓会事務局秋田まで連絡お願い申し上げます。

平成五年度

るの は な 同窓会総会開催

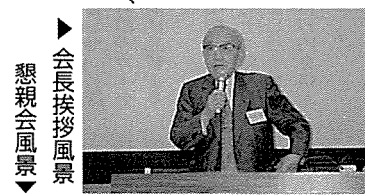
平成五年度るの は な 同窓会総会が、平成五年6月26日(土)午後3時より、千葉大学医学部付属病院第一講堂において開催された。岡本昭二常任理事の司会のもとに、名尾良憲会長の挨拶に引き続き、物故会員74名に黙祷が捧げられた。次いで、大藤正雄常任理事より医学部・付属病院の近況報告がスライドを用いてなされた。

会務報告では、同窓会報を定期的に出すこと、本年度6月以降に会員名簿の作成に取り掛かること、等が報告された。

議事では、平成4年度決算報告および平成五年度予算案(後掲)が承認された。名誉会員として、

稲垣義明(昭26卒)、高見澤裕吉(昭27卒)、岡本昭二(昭27卒)の各先生が推薦された。また、常任理事3名の増員が提案され、佐藤甫夫(事業担当)、福田康一郎(庶務担当)、山浦 晶(会計担当)の各先生が承認された。最後に報告事項として、同窓会報編集委員会委員長の井出源四郎先生、副委員長に嶋田 裕先生がなされたこと、そして年3回、418頁を編集目標にして行きたい旨が報告

会長挨拶風景



会費納入についてお願い……本年度会費を未納の方に振込用紙を同封致しましたので、二千元を納入して下さい。なお、行きがちに振込まれた方、また会費免除の方(卒後五十年経過の会員および名誉会員)に届いた場合は、ご容赦下さい。

会 計 報 告

平成 4 年度決算報告

平成 5 年度予算案

収入の部

単位 円

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
会 費 収 入	6,200,000	6,144,000	△ 56,000
基 金 運 用 収 入	1,500,000	1,578,053	78,053
名 簿 頒 布 収 入	300,000	396,000	96,000
寄 附 金	100,000	62,692	△ 37,308
当 期 収 入 合 計	8,100,000	8,180,745	80,745
前 期 繰 越 収 支 差 額	13,227,609	13,227,609	0
収 入 合 計	21,327,609	21,408,354	80,745

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
1. 事 業 費	(4,600,000)	(3,573,004)	(△1,026,996)
会 報 発 行	1,000,000	507,584	△ 492,416
名 簿 発 行 費	0	0	0
名簿管理委託費	3,000,000	2,465,420	△ 534,580
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 金	300,000	300,000	0
2. 事 務 費	(9,605,000)	(6,166,437)	(△3,438,563)
備 品 費	1,500,000	0	△1,500,000
消 耗 品 費	800,000	1,121,212	321,212
通 信 印 刷 費	3,000,000	1,371,337	△1,628,663
振 替 手 数 料	300,000	129,300	△ 170,700
会 議 費	200,000	439,705	239,705
慶 弔 費	100,000	58,860	△ 41,140
支 部 連 絡 費	300,000	70,000	△ 230,000
人 件 費	2,300,000	2,454,667	154,667
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金	500,000	144,500	△ 355,500
雑 費	500,000	271,856	△ 228,144
3. 基金繰入額	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
4. 予 備 費	(4,122,609)	(0)	(△4,122,609)
当期支出合計	21,327,609	12,739,441	△8,588,168
当期収支差額	△13,227,609	△ 4,558,696	8,668,913
次期繰越収支差額	0	8,668,913	8,668,913
支 出 合 計	21,327,609	21,408,354	80,745

収入の部

単位 円

科 目	平成 5 年度	平成 4 年度	差引増減額
会 費 収 入	6,200,000	6,200,000	0
基 金 運 用 収 入	1,500,000	1,500,000	0
名 簿 頒 布 収 入	9,000,000	300,000	8,700,000
寄 附 金	100,000	100,000	0
前 期 繰 越 収 支 差 額	8,668,913	13,227,609	△ 4,558,696
収 入 合 計	25,468,913	21,327,609	4,141,304

支出の部

科 目	平成 5 年度	平成 4 年度	差引増減額
1. 事 業 費	(9,700,000)	(4,600,000)	(5,100,000)
会 報 発 行 費	1,300,000	1,000,000	300,000
名 簿 発 行 費	5,000,000	0	5,000,000
名簿管理委託費	500,000	3,000,000	△2,500,000
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 金	300,000	300,000	0
教育助成金	2,300,000	0	2,300,000
2. 事 務 費	(9,955,000)	(9,605,000)	(350,000)
備 品 費	300,000	1,500,000	△1,200,000
消 耗 品 費	800,000	800,000	0
通信・印刷費	3,000,000	3,000,000	0
振替手数料	300,000	300,000	0
会 議 費	1,000,000	200,000	800,000
慶 弔 費	100,000	100,000	0
委 員 旅 費	450,000	0	450,000
支部連絡費	300,000	300,000	0
人 件 費	2,300,000	2,300,000	0
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金 費	500,000	500,000	0
雑 費	800,000	500,000	300,000
3. 基 金	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
基金繰入額	3,000,000	3,000,000	0
4. 予 備 費	(2,813,913)	(4,122,609)	(△1,308,696)
予 備 費	2,813,913	4,122,609	△1,308,696
支 出 合 計	25,468,913	21,327,609	4,141,304

※基 金 45,000,000 + 3,000,000 = 48,000,000円

会計報告の解説

平成四年度決算報告

主たる収入は年会費(一人二千円)と基金運用収入(預貯金の利子)によっています。会費納入率は約六十%弱です。

平成四年より名簿の管理をアグレックス社に委託しました(名簿管理委託費)。同窓会館のカーテンを新調しました(消耗品費より七十七万円)。

学生主催のものは祭のエイズ特集号印刷代の一部として雑費より十二万円を援助しました。基金繰入金として毎年三百万円を積み立てています。

平成五年度予算案

収入の部。本年度中に名簿の発行を予定していますので、頒布代金九百万円(一部三千円)を見込んでいます。

支出の部。名簿発行費は名簿管理システムを利用し、約五百万円かかります。名簿管理委託費は本年より維持費として五十万円を計上します。教育助成金の科目を新設しました。毎年、白菊会に三十万円贈ります。さらに、本年は学生講義室のクローラー設置経費の一部として二百万円を医学部に寄付致します。

理事会に遠方よりご出席の方々に旅費を実費支給するため委員旅費の科目を新設しました。以上(清水文七 記)

祝平成四年 叙勲・表彰

勲四等瑞宝章

村浦 公二先生(昭22卒)

勲五等瑞宝章

出井 三郎先生(昭17卒)

支払基金功績者厚生大臣表彰

谷 嶋 俊雄先生(昭34卒)

嶋 田 文之先生(昭37卒)

社会福祉事業功績者厚生大臣表彰

国民健康保健功績者厚生大臣表彰

竹内 信輝先生(昭29卒)

警察医四十六年功労千葉県知事褒賞

内田 成和先生(昭17卒)

川 辺 敏先生(昭18卒)

(おわび)

前号で、村浦公二先生を松浦公二先生と誤って掲載しました。本号にて訂正の上、改めて掲載させていただきます。

おくやみ

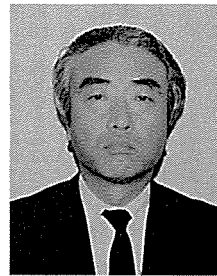
(没年平成五年未掲載の方)

氏 名	卒年	没年月日
小山田義雄	昭11	平5・8・3
永山 公平	昭11	平5・4・7
長谷川 平	昭11	平5・3・7
川北 良平	昭12	平5・2・15
横山 達雄	昭12	平5・7・18
守屋 弘	昭13	平5・4・12
庄 延弘	昭14	平5・5・5
本田 保三	昭14	平5・2・26
伊藤善三郎	昭19	平5・1・17
高柳 欽一	昭24	平5・4・19
前原 晃一	昭25	平5・5・19
能勢 匡夫	昭25	平5・6・7
田宮 達男	昭27	平5・4・6

役所生活三十年

厚生省保健医療局長

谷 修 一 (昭38卒)



で暴れている精神障害者を保護するために派出所のお巡りさんと一緒に壊れた家を訪ねたときなど、貧しいから病気になるのか、病人がいるから貧しくなるのかなどと考えさせられたことを記憶しております。

先日、卒後三十周年のクラス会が横浜で開かれました。同じ日に、毎年必ず出席している医学部山岳部のOB会が東京であり、土曜日の夕方から夜にかけて東京から横浜へとハシゴをしました。考えてみると、三十九年、千葉県市原保健所勤務を振り出しに、松尾保健所長を経て四十四年に厚生省に移り、三十年の役人生活になりました。

市原保健所にいた最初のころは、毎日が暗中模索と言えば恰好はいいが、実際は何をしいているのか分からず、夕方から宿直室で若い連中と酒を飲みながらやる麻雀が唯一つの楽しみでした。それでも、結核検診や予防接種の他に、なんでもやらせてもらうことにして、自分の仕事とは関係のない飲食店の食品衛生の監視や学校のプールの水の検査、野犬の捕獲など、毎日、町や村を走り回っていたように思っています。

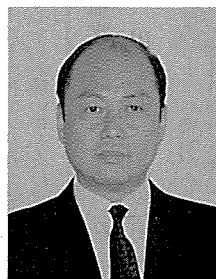
当時は、どこもみんな貧しくて、ベテランの保健婦にくっついて結核患者の家庭訪問をしたり、家庭

ています。今後とも優秀な人材を送り込んでいただきますようお願いいたします。

教授就任の挨拶

千葉大学保健管理センター

長 尾 啓 一 (昭47卒)



平成五年三月末に定年退官されました木下安弘教授の後任として、四月一日より千葉大学保健管理センターの教授に就任致しました。

研究機関の一つとしてその業績を問われるまでになっております。

私は、昭和四十七年に本学医学部を卒業し、本学附属病院第一内科、第二内科での臨床研修、川鉄千葉病院内科での実地研修の後、昭和五十年十月肺癌研究施設第二臨床研究部(呼吸器内科)に入局致しました。以後、本年三月まで渡辺昌平教授・栗山喬之教授の下で、長期在外研究員として滞りした期間を含め計十七年間、教育・研究・診療に携わらせて頂きました。仕事の内容は肺癌の化学療法から始まりましたが、それから派生して肺癌患者の病態生理、胸部画像診断、胸膜炎の治療、呼吸器感染症など広く臨床・研究を行うことができました。またその間、結核、肺癌等の検診事業にも参画させて頂き、結核予防会千葉県支部と協同でフィールドリサーチも行って参りました。

医療費が膨大に膨れ上がった現在、予防医学の重要性が声高に唱えられてはいるものの、健診・検診が形ばかり先行しているような感じが致します。これら二次予防(健診・検診)ばかりでなく疾病にならないための教育・啓蒙活動すなわち一次予防こそがこれからの予防医学の基本だと考えます。

千葉大学の学生数は約一万二千人と増加し、全国国立大学中第四位であります。将来の社会を支える彼らの健康管理はわが国の将来にも影響を及ぼすものと考えますと、本保健管理センターの重要性は極めて高く、自身の責任の重大

埼玉医科大学小児科学講座

佐々木

望 (昭41卒)



さを痛感致しております。今後、効率の良い、精度の高い健康管理を追求しつつ、ヘルスサイエンスセンターとして本施設を広く発展させて参りたいと考えております。今後とも皆様方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

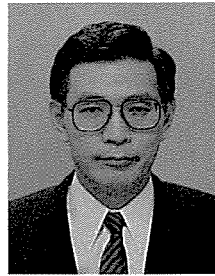
去る平成4年7月29日に心筋梗塞にて急逝された前田和一教授の後任として、平成5年4月1日付で埼玉医科大学小児科講座を担当することになりました。埼玉医科大学は故前田教授が昭和31年に毛呂病院小児科に赴任されたときに遡ることが出来ますが、大学の開設は昭和47年で、大学病院は約一、四八三床の病床をもち、他に川越市には埼玉医科大学総合医療センターがあります。のほなな会員では第3内科に伊藤進教授(昭和26卒)と47年卒の大西久仁彦助教授がおられ活躍されています。小児科には宮地太助教授(昭和47卒)、小出博義講師(昭和49卒)、森野正明講師(昭和50卒)と山崎勉助手(昭和57卒)がおられ活躍されています。

私は、本学を昭和41年に卒業し、久保政次教授(現名誉教授)が主

教授就任の挨拶

筑波大学臨床医学系外科(消化器)学

深尾 立 (昭39卒)



筑波大学は今年で二十周年を迎えますが、現在多数の第一期の教授が定年退官されつつあり、私は昨年十二月一日付けで岩崎洋外科(消化器)学教授の後任とさせていただきます。

消化器外科は七名の千葉大学出身の教官と僅かなレジデントで出発しましたが、その後教官に轟健、石川詔雄、折居和雄、大塚雅昭、高田彰(現在病歴部講師)が加わり、それぞれが持ち味を生かし、院内で最多数の病床を使い、鉄の軍団と異名をとるほど協力し働いてきました。当初の七人も今は私と高瀬靖広助教授(手術部)が残るだけで、更科広実講師は千葉大学第一外科に、岡村隆夫助教授は筑波学園病院副院長、竹島徹講師はつくばセントラル病院院長、尾崎梓助教授はきぬ医師会病院院長に活躍の場を変えています。そして、岩崎名誉教授は、平成七年に開校する茨城県立大学の準備室長として奔走されています。岩崎前教授はライフワークの胆

道癌と臓器移植を中心に研究をすすめられると共に、治療法は生理学的であること、各教官の得意領域を伸ばすとの基本方針のもとに多くの成果をあげました。私も前教授の方針を基礎に、臓器移植と癌治療に主力をおき、多くの研究者が活動するつくばの利を生かして外科学の進歩を図りたいと考えています。

筑波大学では、学生教育に非常に力を入れている上に、無給医を置かないという至上命令の下、千葉大学に帰った更科講師の「筑波では奴隷だったが、今は筑波の教官からお願い申し上げます」。

金沢医科大学小児科学講座

高橋 弘 昭 (昭42卒)



平成四年十月一日をもちまして金沢医科大学小児科学講座主任教授

授、総合医学研究所人類遺伝学研究室部門教授(併任)に就任いたしました。当教室は初代吉田、四家の各教授の後、私は三代目にあた

授以上の部下がいる王様という言葉に端的に表される状況が続いてきました。しかし、教官の去就からも分るように、地域医療も充実してきましたので、研究したい若い人達が大学で力を発揮する余裕もできてくると思います。ちなみに、本年四月からの陣容は、教官が私を入れて八名、三年生から六年生までの消化器外科所属レジデントが十二名(うち三名が出張)、大学院生七名(全員基礎医学研究)、外国研究員二名、四月月毎のローテーションジュニアレジデントが一四名です。

新設大学に共通した多くの悩みを抱えつつも、種まきと発芽に努力を傾けられた前教授の後をうけて、成本となるまで育てるのが私の使命と考えております。従来にも増して同窓の先生方のご支援を心からお願い申し上げます。

り約二十年の歴史があります。私は昭和42年卒業で、全国的な学閥紛争の吹き荒れた時代でした。卒業後程なく、当時小児科学の臨床研修では定評の米国に留学しました。レジデント研修は大変厳しく、勉強になりましたが、小児科学は専門分野が実に多岐にわたっており、小児内分分泌病を専攻したくなりました。そこでメイヨークリニックの小児内分分泌学のフェローとなり四年間臨床と基礎研究を行いました。そして小児科学専門医、小児内分分泌専門医の

資格を得ました。またメイヨー医科大講師、その後ミズーリ大学小児病院に勤務し助教授になりました。米国での生活は大変満足いくものでしたが、子供達が就学年齢に近づき帰国を希望していました。この時日本小児内分分泌学会理事長、千葉大学小児科学教室中島博徳教授に金沢医科大小児科助教授の職をご紹介頂き、昭和五四年に赴任しました。

当時の金沢医科大学小児科は医局員も少なく、新設医大の基礎作り感がありましたが、四家正一郎教授(昭26卒)は温厚寛大な方で、医局員の数も増え、私も自由に働かせて頂き大変お世話になりました。また、教授選考の際には千葉大学小児科新美仁男教授、衛生学能川浩二教授(前金沢医科大教授)のお力添えを頂き、この紙面をお借りし、御礼申し上げます。このように私のような経歴のものが教授就任できたのは、同窓の諸先生のお陰と思っております。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。

東邦大学医学部小児科学第一講座

諸岡 啓一 (昭41卒)



した次第です。

私は、本学を昭和41年に卒業して、インターン終了後久保政次教授の小児科に入局致しました。久保先生はアレルギー、小児喘息の大家ですが、小児神経学を専攻したいという希望を快く聞いて下さいました。当時は教室内には神経の専門家はおらず、国立習志野病院に出て脳波などの指導を受け、学位の研究のために再び国立下志津病院に出向しました。本邦で初めて小児神経学の専門講座が鳥取大学に出来て、お誘いを受けましたので、昭和46年に大学院を修了して、勉強に行きました。三年半後、久保教授から御紹介いただき埼玉医科大学小児科に講師として赴任致しました。中山喜弘教授、続いて前田和一教授には自由に診療・研究をさせて戴きました。埼玉医大では多くの神経疾患を経験でき

この度、平成五年一月一日付けで東邦大学医学部第一小児科学講座の教授に就任致しました。東邦大学では小児科など多くの科で、大森病院にある臨床科を第一講座、大橋病院の科を第二講座と称しており(佐倉病院に関しては佐倉病院小児科など)、それぞれ独立した教室となっております。内科、外科などの大きな科では複数の教授がおられます。当第一小児科では主任教授の定年退任にあたり、松尾進雄教授(小児循環器学)が主任教授となられ、私も教授に就任

ました。ロタウイルス下痢症に伴う良性けいれんは当時見出したものです。他の科の先生方には理解でき難いかもしれませんが、小児の神経疾患はてんかんを初めとして種類、数ともに非常に多く、外來は一杯の状態です。

埼玉医大には九年余りいて、昭和58年に東邦大学第一小児科に参りました。こちらでは埼玉時代手がけていた神経症候学、発達神経学を、運動発達から精神・言語発達まで対象を広げました。したがって保健所、学校関係、教育委員会)との関わりが多くなっております。当大学では本学出身者は非常に少数でしたが、佐倉病院が出来てからは内科の富岡教授(昭和39年卒)を初め少しずつ増えております。必要があれば外の大学にも出かけていき専門領域を広げるなど積極性が望まれます。今後とも皆様の御指導、御支援をお願い申し上げます。

おの は な 同窓会への寄付

(平成五年)

故橋昌夫先生(昭7卒) 御子息(橋) 昌孝様 六二、六九二円
今井 力先生(昭22卒) 五万円

千葉大学医学部八十五年史
千葉大学医学部百周年記念誌
および

千葉大学医学部同窓会会報(平成三年版)

右の記念誌および名簿に残留がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局(内線二〇三八)までお問い合わせ下さい。

神奈川あのはな会

平成4年度神奈川あのはな会総会及び懇親会は、例年のように、6月27日(土)午後6時より、横浜西



口のホテルリッチ横浜4階で開催されました。

参加者は、招待講演者1名、会員50名、招待した神奈川県出身千葉大医学部学生8名を含め、計50名を数えました。恒例の二次会参

加者も32名(会員26名、学生6名)でした。

総会では小林 賢(昭30卒)先生の司会により始まり、富田 裕会長の挨拶に続き、本年度の特別講演にお招きした千葉大医学部部長

林 豊教授(昭25卒、肺研病理教授)の紹介、本年度物故者「故橋爪達男(昭17卒)、小池良夫(昭38卒)、大角総司(昭16卒)、高山欽哉(昭18卒)」報告と故人への黙祷の後、議事に入りました。

病気療養中の野呂忠慈(昭34卒)先生に代わり、原 紀道(昭38卒)が平成3年度庶務報告を行い、平成3年度決算報告、平成4年度予算案が森 豊先生より提案され、全会一致で可決されました。また平成4年度の活動方針として、総会懇親会開催、会報発行だけでなく新たなプログラムを考えたい、会員の皆さんのご意見を伺うため、本日本配りしたアンケートを参考にしたいとの富田会長の発言がありました。

特別講演は、母校の医学部長、千葉大肺研病理教授林 豊先生をお願いしました。先生は専25年卒で、千葉大医学部第一病理学教室で滝沢延次郎教授のもと、永く肺癌の発生病理のご研鑽を積まれた方です。

次いで先生のライフワークの肺癌の病理につき、肺胞の組織と大気汚染の影響、タバコとの関係、ことに日本で増加している腺癌にはタバコは関係が少なく、地域的な偏差があり、遺伝子に関係が深そうだと興味深いお話しでした。懇親会は、恒例の記念写真撮影

後、高橋柳子(昭32)の司会で、林直諒(昭38卒)先生の辞で始まり、立食のパーティ形式で開かれました。乾杯の音頭を中島博太郎(昭16卒)先生に取っていただき、新規開業の飯野いづみ(鎌倉市・昭40卒)、小野田昌一(川崎市宮前区・昭40卒)両先生の挨拶、在校生8人の皆さんの紹介がありました。例年のごとく、和やかな談笑に、話しは尽きず二次会と会場を替えて夜は更けたのでした。(原 紀道・昭38卒・記)

八千代会

一九九三年五月15日、恒例の八千代会が新宿駅近くの松登で開催されました。45名の同窓生の内7名が天に召され、現在員38名中19名の出席がありました。我々は一九五一年(昭26)の卒業の同窓生であり、近年、殆んど欠かすことなく毎年開催されており、一昨年40周年記念総会の報告も「あのはな」会報に報告させて戴きました。

まず、7名の亡くなられた同僚の為に黙祷を捧げたのち、昨年度文部大臣より表彰を受けたばかりの、会長森兄よりの開会の挨拶で始められました。つづいて、常任幹事の太田兄からこの1年の動静、会計報告、会計監査報告などが型通り承認されてから、会則の1部改正の提案あり承認されました。全員が65才前後の年代ですが、集まった面々は誠に元気で、その年を感じさせない、華やいだ雰囲気



やや遅れて広島から出席した中島兄の発案で、来年は広島でやろうということになり、全員一致で決定致しました。

記念の為に出席者の氏名を記して筆をおく。石川、今井、磯部、大沢、大田、片桐、河野、菊島、小関、佐藤、椎名、関谷、鷹野、内藤、成田、中島、原、平川、森、以上でした。(広報担当 石川)

「こころをみる」 心で診る

出版に際して
渡辺 武

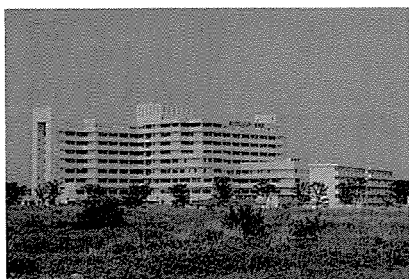
医学医療に関する新しい情報は、不消化のまま、茶の間に浸透してきています。国民の間には、いろいろな不安が漂っています。専門化、細分化が進み、総合化がありません。大病院指向も、機械信仰です。3時間待つ3分診療では、医者も患者も共に疲れるだけで、信頼関係は、いつまでたっても生まれません。ではどうするか一つの考え方を述べたものです。(リビ社刊文京区二二二)

第87回医師国家試験

行なわれる

医師国家試験の実施は今年から約一ヶ月早くなり、去る三月二十日、二十一日に施行され、四月二十三日に合格発表が行なわれ、本学卒業生を受験者数は百二十名(新卒百一名、既卒十九名)で、合格者は百十三名(新卒九十八名、既卒十五名)であった。

国立がんセンター東病院 整形外科



平成4年7月1日、国立柏病院と国立療養所松戸病院は国立病院の再編計画により統合され、国立がんセンター東病院として発足いたしました。これにともない国立柏病院整形外科（千葉大学腫瘍班）も新病院において、ひきつづき骨軟部腫瘍の診断と治療を行なっています。整形外科領域の腫瘍、骨軟部腫瘍は発生頻度はきわめて低いものの、中には生命に直接関係する悪性腫瘍（肉腫）があります。がんと異なり若年（小児）に発生すること、化学療法、放射線療法、手術療法などの進歩が著しいことにより、初期より適切な治療が行なわれれば、きわめて難治性の腫瘍も根治できるようになっています。また転移など進行例に対する治療法、症状の改善もみられています。一九八七年より現在まで諸先生方より紹介された症例は骨腫瘍四

百十六例（悪性一六三例・原発性六十六例、転移性九十七例、良性二五三例、軟部腫瘍二四三例（悪性五十九例、良性一八四例）であります。骨腫瘍、軟部腫瘍とも悪性腫瘍との鑑別診断が最も重要になります。臨床所見、各種画像診断（MRIが良い）により診断が明らかでない例は針細胞診、生検による病理診断を行うことが重要です。良性腫瘍では患者の訴え（症状）により治療法（保存治療で良い）を決定し、生命に関係する悪性腫瘍では術前化学療法、放射線治療、温熱療法、手術（切除法、再建法）を行ない、術前治療の効果をみて術後化学療法を決定します。

ホテルを思わせる吹き抜けの受付（ロビー）の右奥が整形外科外来で、担当は（月）梅田、（火）石井、（金）梅田です。新患を除いて予約制となっていますので混雑はまったくありません。先生方の簡単な紹介状があれば大変有難いです。（火）は手術日（手術場は4階）としていきます。病室は7階B病棟で消化器外来との混合です。時には検査のための5A病棟を使うこともあります。8階が有料個室階9階が眺望の良い食堂と大浴場（患者さん用）となっています。なお別館には国立医療機関としては初めての緩和病棟（ホスピス）が25床あり、見学者が絶えません。以上のように国立がんセンター東病院整形外科は充実した設備の

もと、築地の中央病院整形外科、千葉大学整形外科と診断、治療について緊密な連係により治療の一層の向上を目指しております。諸先生方より症例の相談、紹介など心よりお待ちしております。なお施設を見学される場合も連絡していただければ御案内致します。（梅田 透・昭48卒・記）

めのはな同窓会 常任理事会議事録 第四回

日 時：平成五年二月十七日
場 所：同窓会館一階会議室
議事内容一、平成五年度常任理事会開催（案）について
平成五年四月二十八日（水）
六月二十六日（土） 総会
十一月二十四日（水）
平成六年二月十六日（水）
開催する年度計画が了承された。
二、平成五年度総会（案）について
日時：平成五年六月二十六日（土）
午後3時より
場所：大学病院第一講堂
なお、総会後第三講堂にて懇親会を開くことが了承された。

三、理事増員について
①学内常任理事として、佐藤南夫（精神神経科）、山浦 晶（脳神経外科）、福田康一郎（第二生理室）の各教授が推薦され、了承された。
②学内理事として鈴木信夫助教（第二生理室）柳橋雅彦講師（精神神経科）が推薦され、了承された。
四、役員旅費について
合意され、次年度予算に組み込むこととなった。

五、めのはな同窓会会則の見直しについて
今回は、十分な検討をしていないので、次回の常任理事会に完成した形の会則を、清水常任理事が提出することとなった。
六、編集委員会について
①新たに、白澤 浩（微生物学第一）、下山直人（麻酔学）の両名に編集委員を委嘱することとなった。
②次回の同窓会報と併せて同窓会名簿の間違いなどを訂正するための用紙を配布することとなった。
③同窓会報編集委員長を岡本常任理事に代わって、嶋田常任理事が引き継ぐことになった。
七、その他
①名尾会長より、岡本常任理事に任期終了後は参与として、めのはな同窓会役員に留まるよう要請があり、本人ならびに、常任理事の了承が得られた。
②めのはな同窓会費納入率の改善については、めのはな同窓会報と一緒に納入勧告をする、あるいは、引き合則見直しにあたって、専門部の卒業生が、会則に会員に含まれていないような誤解を招く文章がみられるので、注意して欲しい。
③名簿整理にあたっては、賛助会員の扱いについて十分に留意して欲しい。
④四金会の運営に関して、規約を作成する必要があるとの学内常任理事会の申し合わせ（議事録照合）があるが、今回はこの問題は議題として提出しなかった。

四金会
常任理事会に引き続いて、同場所にて開催された。椎名常任理事が司会を担当し、めのはな同窓会の運営についてなど意見を交換し、欲談がもたれた。

第五回
日 時：平成五年四月二十八日
場 所：同窓会館一階会議室
議事内容一、平成五年度総会準備については、めのはな同窓会報にて会員に通知された。
二、名簿作成については、三年毎に刊行されていたが、千葉市の住所表示と電話番号の変更があったので、一年繰り上げて本年内にこれを完成するよう計画する。なお、嶋田 裕理事と佐藤南夫（理事候補者）が担当することとなった。
三、役員旅費については、予算案を組み入れて実施することとした。なお、旅費計画は十分な配慮の下に行うことが了承された。
四、決算及び予算については、基本的事項について承認されたが若干の手直しが必要であり総会までに検討することとなった。
五、めのはな同窓会規約の見直しについては、引続き検討し総会の次の常任理事会に再度提案することとなった。
六、めのはな同窓会報については、同窓会の活動や総会の特別講演などの紹介記事を加えるなどさらに内容の充実をはかることが提案された。
七、会員総合補償制度の加入状況については、順調に進行していることが報告された。
八、その他
①四金会の会則については、引続き検討すること

なった。②常任理事候補者の佐藤南夫、福田康一郎、山浦 晶の各氏には事業、庶務、会計をそれぞれ担当してもらうこととし、総会での承認以前に実務を開始してもらうことが了承された。③めのはな同窓会報の編集委員に対して役員に準じて旅費を支給することが了承された。

人事移動

（平成五年四月一日～九月一日）
教授昇任（千葉大学）
関谷宗英（昭40卒）
産科婦人科学（同助教より）
増田善昭（昭35卒）
内科学第三（同助教より）
新海 滋（神戸医大 昭40卒）
皮膚科学（大分医大助教より）
助教昇任（千葉大学）
大森 栄（千葉大薬学部昭52卒）
附属病院薬剤部（同助手より）
古山信明（昭43卒）
附属病院手術部（同助手より）
講師昇任（千葉大学）
幡野和男（日大 昭56卒）
附属病院放射線科（同助手より）
佐伯直勝（昭50卒）
脳神経外科（同助手より）
配置換（千葉大学）
米満 博（群馬大 昭35卒）
医学部教授臨床検査医学講座（附属病院検査部より）
菅野治重（昭49卒）
医学部講師臨床検査医学講座（附属病院検査部より）
千葉大学真核微生物研究センター長 宮治 誠（昭38卒）

なりました。②常任理事候補者の佐藤南夫、福田康一郎、山浦 晶の各氏には事業、庶務、会計をそれぞれ担当してもらうこととし、総会での承認以前に実務を開始してもらうことが了承された。③めのはな同窓会報の編集委員に対して役員に準じて旅費を支給することが了承された。